

ASEAN HERITAGE TRAIL

PERANAKAN A Colourful Culture

プラナカン
カラフルな文化





プラナカン カラフルな文化

周辺マップ

見逃せない観光スポット

博物館&文化施設

美食の楽しみ

工芸品、デザイン、織物のすべて

イベントハイライト

プラナカン、カラフルな文化

プラナカンのヘリテージトレイル、 東南アジアの歴史と文化が融合する物語

東南アジアのどこを見回しても、プラナカンの歴史と文化ほど東南アジアの本質を余すところなく表現しているものはありません。

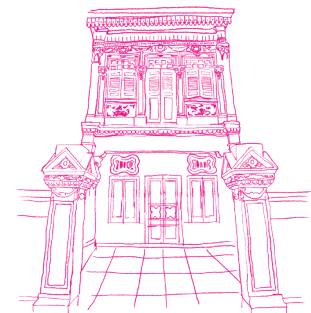
その理由は、プラナカンが、いくつもの多彩なアジアの文化が融合したもので、それが東南アジアに息づき、独自の生活様式を生み出しているからです。プラナカン (Peranakan) という言葉は、子孫や末裔を意味するマレー語から来ています (語中のanakは、マレー語とインドネシア語の両方で子どもを意味します)。

正確には、中国南部からマレー半島のアンダマン海沿岸に住み着き、そこからシャムの沿岸の町に広がっていった中華系移民を主に指しています。中華系移民は、船でスマトラ島やジャワ島にも渡りました。そこで現地の人と結婚するというのが一般的な流れでした。そうしてできたコミュニティは現地の風習を身に付けながら、移民たちが持つ中国の伝統と融合していききました。これがプラナカンコミュニティの誕生です。

プラナカンの商人は当初ペナン、マラッカ、シンガポール、ジャワ島沿岸部に移住しましたが、その後は錫の産出で栄えていたシャム南部のブーケット、パンガー、ソクラーを目指して北へ向かう流れと、スマトラ島に渡り主にメダン、パダン、スマトラ南部に進出していく流れができました。さらに言えば、プラナカンとは、中華系移民が婚姻を通じて現地の人々に強力に溶け込んでいったコミュニティを指しています。そのため、プラナカンコミュニティはフィリピン、ボルネオ島、インドネシアのスラウェシまで広がっているのです。

プラナカンの人々は、マレーシアやシンガポールでは海峡華人 (Straits Chinese) と呼ばれることが多く、タイ南部に暮らす人々を含むプラナカンコミュニティでは自分たちをババやニョニヤと呼んでいます (ババは男性、ニョニヤは女性)。例えばブーケットでは、地元のプラナカンの人は自分たちを「ブーケットのババ」と呼んでいます。

現在では、ASEAN諸国のプラナカン人口は、フィリピンおよびボルネオ島で暮らすコミュニティも合わせ、800万人から900万人と推定されています。



インド系プラナカン (CHITTY PERANAKAN)

プラナカンは、婚姻を通じて現地に溶け込んでいる中華系移民だけでなくインドからの移民も指します。15世紀に、南インドのタミル・ナドゥの商人一行がマラッカの王国に着きました。一行は王国に定住し、ポルトガルと英国の影響も入っていたマレーと中国の風習や生活様式を身に付けていきます。現在、インド系プラナカンの多くはマラッカ (インド系プラナカンコミュニティを専門に扱う小さな博物館があります)、およびシンガポールのセランゲーンロード周辺で暮らしています。



カラフルな文化

プラナカンの人々は独自の文化を發展させ、特に鮮やかな色使いの日用品、装飾品、ファッションにそれが表れています。グリーン、ターコイズに明るいピンクがミックスした色合いや、金のラインを混ぜた黄色が使われています。

陶器にも鮮やかな色彩への思い入れを見ることができます。ティーポット、ボウル、プラナカンの容器のカムチェンなどの食器にもあらゆる色味が取り入れられています。特に注目すべきは家の外観部分であるファサードに使われているタイルでしょう。微妙な色合いに英国アールヌーヴォーからヒントを得たモチーフが入っています。

ファッションも同様にインドネシアやマレーの文化的要素をミックスしており、花柄のパティックをレースと合わせたり、女性のシルクのブラウスの多くは華やかさを増すために刺繍が施されたりしています。伝統的な結婚式は、衣装と儀式が非常に凝っているために費用が高く、減少の傾向にあります。しかし最近では、クロサン (一連のブローチからなるブラウスを飾る宝石装飾)、イヤリング、ブローチ、ヘアピン、ベルトは容易に手に入れることができます。多くのショップや若手デザイナーがプラナカン雑貨を復活させている一方で、アンティークショップでもまだ中古の宝飾品や雑貨を見つけることができるからです。

プラナカンは料理でも独自性を発揮しており、伝統的なマレー、インドネシア、タイ料理を融合し中華風のアレンジを加えています。シンガポール、ペナン、マラッカ、ブーケットでは、香り豊かなプラナカン料理を扱う観光客向けの料理教室や、ニョニヤ料理専門のレストランも増えています。

こうしたプラナカンの独特の文化を知るには、プラナカンコミュニティの生活や伝統を紹介するブーケット、パンガー、ペナン、マラッカ、シンガポール、メダンの博物館あるいはアートギャラリーが絶好の場所となっています。



プラナカン、カラフルな文化

Thailand タイ

タクアパー (Takua Pa) パンガー市 (Phang-Nga City)
 プーケット (Phuket) クラビ (Krabi)
 トラン (Trang) ソンクラー市 (Songkhla City)
 ハジャイ (Hat Yai)

Malaysia マレーシア

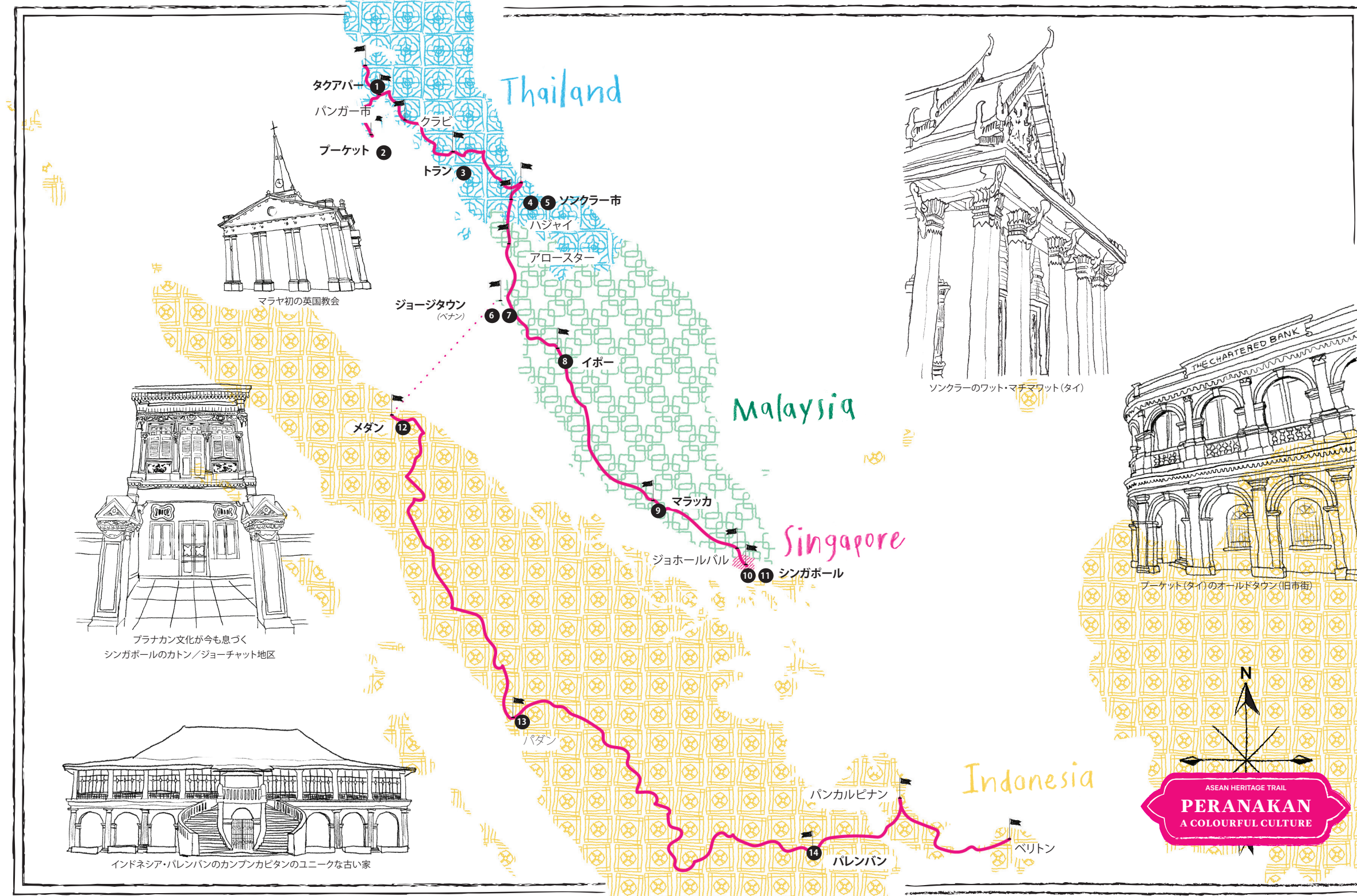
ジョージタウン (George Town) (ペナン)
 アロースター (Alor Setar) イポー (Ipoh)
 マラッカ (Melaka) ジョホールバル (Johor Bahru)

Singapore シンガポール

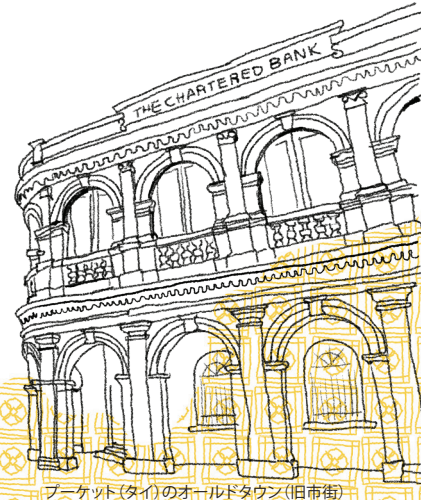
カトン (Katong) ジョーチャット (Joo Chiat)

Indonesia インドネシア

メダン (Medan) パダン (Padang)
 バレンバン (Palembang)
 パンカルピナン (Pangkal Pinang)
 ベリトン (Belitung)



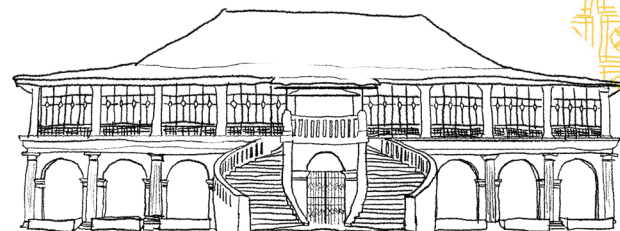
ソンクラーのワット・マチャマワット (タイ)



プーケット (タイ) のオールドタウン (旧市街)



プラナカン文化が今も息づく
シンガポールのカトン/ジョーチャット地区



インドネシア・バレンバンのカンブンカピタンのユニークな古い家

ASEAN HERITAGE TRAIL
PERANAKAN
 A COLOURFUL CULTURE

プラナカン、カラフルな文化

参加メンバー:

旅行日:

[illegible][illegible]

ルート

The image shows a large grid of 20 columns and 20 rows. A red dashed line starts at the top-left corner and curves downwards and to the right. A small black flag is located at the bottom-right corner of the grid.

見逃せない観光名所

見逃せない観光名所

Takua Pa
Old town

タクアパーのオールドタウン
(旧市街)



old town
attractions.

オールドタウン(旧市街)の
見どころ

① タクアパーのオールドタウン(旧市街)

Phang-Nga, THAILAND

タイにおけるプラナカン文化の生きた博物館とされています。タクワパーは錫が発見され、ペナンに移住していた多くの中華系移民が居を移してきたことで繁栄しました。旧市街には伝統的な建築物が並んでおり、典型的な中華系マレーの建築様式にヨーロッパ様式とタイのディテールが融合されています。

② プーケットのオールドタウン(旧市街)

Phuket, THAILAND

プラナカン住居の数では間違いなくタイ最大です。プーケットは最近大々的な修復作業を実施しており、古い家々は塗りなおされ、新たな息吹が吹き込まれています。家々の外見がカラフルになっただけでなく、多くの家にデザインショップ、おしゃれな飲食店やカフェ、ホテルが入ったことで、写真に収めたいくなる景観が広がっています。特に、タランロードの一角にあるソイロマニーは、色とりどりの家が並ぶ絶好のフォトスポットです。クラブ通り沿いに並んでいる、現在はブルーエレファントレストランとなっているプラ・ピタック・シンパチャーハウスやチンプラチャー邸などの豪邸も見ごたえがあります。

③ トランのオールドタウン(旧市街)

Trang, THAILAND

古い家々の壁にはところ狭しと絵が描かれており、今やストリートアートの屋外博物館となっています。とりわけタブティアン小地区のラチャダムヌンストリートには素晴らしい作品が並んでいます。タブティアン・オールドタウン・カフェ&ビストロの店内では壁の絵を眺めながらコーヒーを楽しむことができます。

Trang トラン



④ ワット・マチマワット

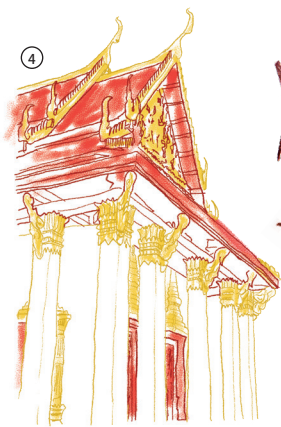
Songkhla, THAILAND

プラナカン様式のショッパハウスが並ぶソングラーの旧市街の中心に位置するワット・マチマワットは、17世紀まで遡るタイ南部でもっとも古い寺院の1つで、中国、ヨーロッパ、タイ南部の様式が融合しています。アユタヤ様式の大乗戒壇にはブッダの生涯を描いた圧巻の壁画があります。

⑤ 植民地時代の面影が残るソングラーのナコンナイ通り

Songkhla, THAILAND

もっとも多くのプラナカン様式の建築物が並ぶ通りです。その1つにオープンしたばかりのバーン・ナコン・ナイ博物館があり、ソングラーの有名な中華系タイ人の生涯を紹介しています。



Wat
Matchimawatt

ワット・マチマワット

Tycoon dreams
in George Town

大富豪気分を味わえるジョージタウン



Songkhla ソングラー



⑤



ジョージタウン

George
Town

⑥

atmosphere of city 街の雰囲気

⑥ ジョージタウンのシティービュー

Penang, MALAYSIA

ジョージタウンの歴史的な街並みと、数百という赤い屋根のプラナカン様式のショッパハウスをもっとも堪能できる場所はどこでしょうか。コムタタワーの最上階である68階には地上248mのレインボースカイウォークがあり、ジョージタウンの360度のパノラマを楽しむことができます。外を歩くのは怖いという方もご安心ください。65階には強化ガラス張りの展望室があります。

⑦ 大富豪気分を味わえるジョージタウン

Penang, MALAYSIA

Millionaire's Row (億万長者の街)とも呼ばれるガーニードライブは、イースタン&オリエンタルホテルの北西方向にある、ペナン島海岸沿いの広々とした通りです。英国統治時代には富裕層や権力者が集まる高級住宅地でした。レンタサイクルでの周辺観光もお勧めです。ホームステッド (現在はワウサンオープン大学) やウッドヴィルマンションなど、まるでお城のような堂々とした邸宅が次々と現れます。バンコクレーンの行き止まりにはコロニアル様式のショッパハウスが並ぶ一角があり、その近くにはユニークなタイ建築様式のペナンの寺院があります。

8 列車が走るイポーの「タージマハル」

Ipoh, MALAYSIA

地元の人にタージマハルと呼ばれているこの建物、実はイポーの鉄道駅です。イポーは20世紀初めに錫採掘によって栄え、エドワード・バロック様式を取り入れた重厚なコロニアル建築が相次いで建てられました。タウンホール(市庁舎)、セント・マイケル・インスティテュション(学校)、イポー鉄道駅などです。1917年に開業したイポー鉄道駅は、大きなドーム屋根を持つことからタージマハルと呼ばれるようになりました。

9 マラッカで融合するポルトガル、オランダ、プラナカン

Melaka, MALAYSIA

マラッカの旧市街はユネスコの世界遺産に登録されています。かつてはスルタンの重要な領土で、15世紀にはマラヤで初めて国際的取引が行われました。セント・ボールの丘には、ルネッサンス後期のオランダのスタダイス(市庁舎)、英ヴィクトリア女王の噴水に面したクラシカルなキリスト教教会などあらゆる文化的見どころが集中しています。数メートル先には、アジア最古のポルトガル軍の要塞跡であるサンチャゴ砦、セント・ボール教会跡があります。川を渡ると、プラナカンの家や中国の寺院が並ぶジョンカー通りとヒーレン通りに出ます。



Peranakan
well-alive in
Singapore Katong
/ Joo Chiat district

プラナカン文化が今も息づくシンガポールのカトン/
ジョーチャット地区



10 プラナカン文化が今も息づくプラナカンコミュニティの中心地、シンガポールのカトン／ジョーチャット地区

Katong/Joo Chiat, SINGAPORE

プラナカンコミュニティの中心地です。クーセン通りやジョーチャット通り沿いでは、漆くいで塗られた2階建てのショップハウスやレースのようなテラスハウスなど宝石のような建築物を楽しむことができます。レストランやコーヒーショップが入る建物もあり、有名なカトンラクスなどの地元料理を提供しています。

11 富裕層とセレブの高級住宅地

Newton & Orchard, SINGAPORE

エメラルド・ヒルはかつては農園でしたが、テラスハウスが並ぶ高級住宅地に変貌をとげました。1920年代から1950年代にかけて、シンガポールのプラナカンコミュニティのもっとも裕福な人々が暮らしていました。美しく修復された家々を見て回るのは、オーチャードロードにも劣らず散策にぴったりです。

12 メダン最後のプラナカン邸宅

Medan, INDONESIA

かつてメダンでもっともエレガントとされた通り沿いに位置するジョンアフィエ・マンションは、2階建ての周囲を庭で囲まれた邸宅で、1900年に完成しました。ジョンアフィエは、メダンのプランテーションの大半を所有する裕福な商人でした。現在、邸宅はプラナカンの生活を紹介するユニークな博物館になっており、ジョンアフィエの子孫が管理しています。



Emerald Hill
Only for the wealthy
and famous.

エメラルド・ヒル
富裕層とセレブの高級住宅地

13 パダンのパタンアラウ川沿い

Padang, INDONESIA

川沿いにはパダンの旧市街があり、16世紀にはすでに貿易が始まっていた歴史的港があります。パダンの旧市街は2009年の地震でとりわけ大きな打撃を受け、再建が遅れています。しかし、崩れかけた家がこの界隈の魅力をさらに増しているようです。

14 カンプンカピタンのユニークな古い邸宅(パレンバン)

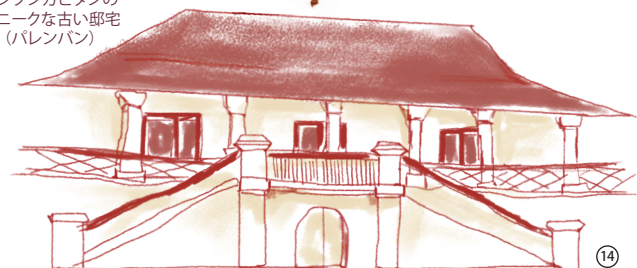
Palembang, INDONESIA

南スマトラ州の州都パレンバンでも、中国、マレー、オランダの文化的影響が混ざり合った300年も前の伝統的な家が15軒も残っているのはここだけです。典型的なピラミッド型の屋根、施された繊細な彫刻、ヨーロップ様式の円柱で支えられているベランダが特徴です。



Unique
ancestral houses
of Kampung Kapitan
in Palembang.

カンプンカピタンの
ユニークな古い邸宅
(パレンバン)





Museums and Cultural Attractions

博物館 & 文化施設

Gastronomy Delights

美食の楽しみ

All About craft, Design and Textile

工芸品、デザイン、織物のすべて

Living Arts Highlights

イベントハイライト

プラナカン、カラフルな文化

博物館&文化施設

1880年から1940年の間のプラナカンコミュニティの歴史および生活を理解してもらうため、多くの博物館が工夫を凝らした展示をしています。



ソンケラー国立博物館

タイ

ブラナカン博物館 (Peranakannitat Museum) は2年前にマハー・チャクリー・シリントーン王女殿下が開設したもので、プーケット初の外資系銀行だったスタンダードチャータード銀行の元建物を利用しています。プーケットのオールドタウン (旧市街) の成り立ちを紹介する博物館として、歴史的な調度品、絵画、プーケットのプラナカンファッションを展示しており、プーケットの郷土料理も取り上げています。

プーケット・タイファ博物館 (Phuket Thai Hua Museum) はプーケット島でもっとも古い中国人学校であった建物を利用しています。2010年に、プーケットの中華系コミュニティを専門とする博物館に生まれ変わり、交易、文化、錫の採掘、中国本土との関係、教育、建築様式などを紹介する13の展示室があります。必見の博物館です。

プーケットのシンパチャーハウス & 博物館 (Chinpracha House & Museum)。今も所有者が暮らしているシンパチャーハウスでは、さまざまな日用品や調度品から、地元プーケットのプラナカン家族の生活様式を垣間見ることができます。

パンガー市のアンダマンアート・文化・伝統研究センター (Research Center for Andaman Arts, Cultures and Traditions) は、タイ南部のアンダマン沿岸の人々をもっとも包括的に取り上げている博物館です。5室ある常設展示室のうちの1室では、1世紀前によく見られたプラナカンの通りを再現しています。

ソンクラーク国立博物館 (Songkhla National Museum)。タイでも最高級の美しさを誇る国立博物館で、19世紀末に建てられた当時はソンクラークの知事公邸でした。吹き抜けの中庭を囲むように建てられた堂々とした中国様式の邸宅です。南部のアンティーク品や工芸品を展示しています。

トラン県のプラヤー・ラサダーヌプラディット・マヒソン・パクディー博物館 (Phraya Ratsadanupradit Mahison Phakdi Museum)。トランの港町だったカンタンにも、いくつかプラナカンの家があります。この邸宅には、かつてのトランの知事プラヤー・ラサダーヌプラディットが暮らしていました。この知事は実はベナンの出身のため、多くの展示品や絵画はベナンと関係のあるものとなっています。



マレーシア

ペナン州立博物館 (Penang State Museum)。かつての学校を利用した博物館です。ジョージタウンで暮らすさまざまなコミュニティの生活を想い起こさせる展示品が何千と並んでおり、楽しみながらペナンの歴史を振り返ることができます。

ペナン・プラナカン・マンション (Pinang Peranakan Mansion) は、130年以上前に建てられた裕福なババの豪邸内にあります。1,000点を超えるアンティーク品や収集品が展示されており、プラナカンの贅沢な生活様式を垣間見ることができます。かつては Kapitan Cina Chung Keng Kwee の自宅兼オフィスとして使用されていました。

タイピンのファーストガレリア (First Galleria, Taiping)。かつてタイピンの町役場だった歴史的な建築物に、タイピンの歴史を専門とする博物館のファーストガレリアが入っています。なぜファースト (1番) なのでしょう。英国統治時代にタイピンが、マラヤ初の刑務所、最初の鉄道、病院、ゴルフコース、欧州クラブ、公共の公園、スイミングプール、時計塔、中央市場、郵便局、女子校など数々の「ファースト」を獲得したからです。

マラッカのババ・ニョニャ・ヘリテージ博物館 (Baba & Nyonya Heritage Museum, Melaka)。1861年にチャン一族が手に入れた3つのテラスハウスからなる博物館です。4世代にわたって住居として利用されていましたが、1985年に博物館となりました。現在もチャン一族が運営しています。独特の調度品や美術品からマラッカ有数の富裕な一族の生活に触れることができます。



Peranakan Museum Singapore

シンガポールのプラナカン博物館

Maimoon Palace Medan, Indonesia

メダンのマイムーン宮殿(インドネシア)



シンガポール

プラナカン博物館 (Peranakan Museum) は、東南アジアでもっとも幅広くプラナカンの品々のコレクションを収蔵しています。かつて中国人学校だった建物を利用していますが、2021年中ごろまでは改修工事のため閉館となっています。しかし、チャンギ空港の第4ターミナルにあるプラナカン博物館では常設展示を、またシンガポール国内の図書館では企画展を見ることができます。

シンガポール国立博物館 (National Museum of Singapore)。図書館の重厚な建物は、1887年にラッフルズ図書館兼博物館として開設されたシンガポールでもっとも古い文化施設です。さまざまな見学ルートやテーマ別ギャラリーが用意されており、シンガポールの歴史とコミュニティについて幅広い視点から学ぶことができます。

インドネシア

メダンのマイムーン宮殿 (Maimoon Palace) はプラナカンとの関係はほぼありませんが、当時のアートや工芸品の影響を受けています。かつてデリ王国のスルタンの住居であったこの宮殿は1888年に建設されたもので、多様な建築様式を融合しており、ネオムア様式の要素にオランダのアールヌーヴォー、中国およびペルシャの装飾モチーフがブレンドされています。今でもインドネシアでもっとも見ごたえのある宮殿のひとつです。

パレンバンのスルタン・ムハンマド・バダルディン2世博物館 (Museum Sultan Mahmud Badaruddin II)。コレクションはそれほど目を引くものではないかもしれませんが、建物の典型的なつくりはオランダの影響を受けたパレンバンの建築様式の好例であり、展示物からはパレンバンの歴史を紐解くことができます。かつてはパレンバンのスルタンの宮殿として利用されていました。



ニョニヤ料理とも呼ばれるプラナカン料理は、中国南部、インド、ジャワ島、スマトラ島および、かつてのマラヤ、シャムを発祥とする伝統的な料理からヒントを得ています。こうしたあらゆる料理を融合させたことで、豊かな風味と色合いの料理が生まれました。プラナカン料理のベースとなっているのは、カレー粉、タマリンド、豆醬(中国醤油)、チリペースト、ココナッツミルク、ガランガル、ジンジャー、キャンドルナッツ、カフィアライム、パンダンリーフなどです。鶏肉、豚肉、牛肉、魚などの食材はスパイシーなペーストとココナッツミルクを混ぜたグレービーソースで煮るのが一般的ですが、地域によってバリエーションがあります。プーケットおよびペナンのプラナカン料理は比較的タイの風味が強く、中でもペナンのラクサ(タマリンドを効かせたカレースープ)などは酸味が際立っています。一方、マレーシア南部やシンガポールでは、シンガポールのラクサやマラッカのラクサのようにココナッツミルクをたっぷり使っています。

西スマトラのミナンカバウ発祥の代表的料理がルンダンであり、ナシレマ(ココナッツ風味のご飯)が添えられるのが一般的です。ルンダンとは牛肉か鶏肉をスパイスとココナッツミルクで数時間じっくり煮込んだ料理です。ニョニヤは豚肉をルンダンに使うこともあります。

CNNが最近ルンダンはインドネシアを代表する料理だと紹介しており、西スマトラで開催されていたルンダンフェスティバルは今やインドネシア全土に広がっています。

ブラナカントレイル沿いの名物料理



Katong Laksa in Singapore

シンガポールのカトンラクサ

クエパイティー (Kueh Pai Tee) と呼ばれるニョニヤパイティー (Nyonya Pie Tee) は、アンダマン海の沿岸ではブラナカン料理の代表的な前菜です。帽子型に成形しカリッと揚げた薄い皮に、香ばしく味付けしたクズイモ、干しエビや生の小さいエビ、錦糸卵、エシャロット、千切りにした人参、生の赤唐辛子を詰め、自家製のチリソースをかけます。

ブーケットのムーホン (Moo Hong) は、ブーケット島の代表的なブラナカン料理です。豚バラ肉をブラウンシュガー、醤油、ガーリック、黒コショウで煮込んだものです。しばしばポテトが添えられます。

ブーケットのホッケンミー (Hokkien Mee)。名前から分かるように中国から来た料理で、卵麺に、小エビ、イカ、スライスした豚肉、野菜を混ぜ、最後にゆで卵を添えます。優しいマイルドな風味の汁がかかっています。

トランのムーヤン (Moo Yang)。たくさんの点心から好きな物を選んでいくトランの朝食風景でよく目にする豚料理で、点心の付け合わせとして好まれています。一晩かけて中国の香草、スパイス、蜂蜜でじっくり煮込まれた豚肉には甘辛い味がむらなく染みしています。



Thong Myan

トムムアン

ソングラーのお菓子やデザートを探すなら、ナンガム通りです。地元で作っているクラッカーのような「トムムアン」、しょうが汁に入った豆腐のデザート「タオフアイ」のほか、有名な中華菓子も売られています。

ペナンのラクサ (Laksa)。タイの影響によりタマリンド、レモングラス、ラクサリーフ (ベトナムコリアンダー)、カラマンシーが入っているため、ラクサの中でも酸味と辛みが強いスープになっています。

ペナンのカピタンチキン (Kapitan Chicken) は、ココナッツミルクで煮込みカフィアラムで風味付けをした比較的マイルドで香ばしいカレーです。

シンガポールのカトンラクサ。ジョーチャット／カトン地区に行くのであれば、ぜひ地元のレストランで名物の香り高いカレースープと、キム・チュー・クエ・チャンの自家製焼き菓子をお試しください。

シンガポールのフィッシュヘッドカレーには、シンガポールが持つ多文化アイデンティティーが凝縮されています。魚の頭を、オクラとトマトがたっぷり入ったスパイシーなピリ辛のカレーで煮込んでいます。

バダンのレンダン (Rendang)

西スマトラ発祥のインドネシアを代表する料理で、牛肉や鶏肉などの食材を、ココナッツミルク、ガランガル、タマリンド、オニオン、ガーリック、コリアンダー、チリ、レモングラスなどで作ったグレービーソースでじっくり煮込んだ料理です。

パレンバンのクンプラン (Kemplang) と **ペンベ (Pempek)**。パレンバンでは必ず目にするはず。町の店では壁一面にインドネシア語でクルプック (krupuk) という魚のクラッカー、クンプランが並べられています。1メートルもする大きなものもあり、変わった形をしています。ペンベも南スマトラを代表するお菓子です。魚とタピオカを練りこんだ生地を使う塩気のある練り物で、卵や麺を足したり、パームシュガー、酢、タマリンドで作ったたれをかけたりし、干しエビパウダーを振りかけます。



Nyonya Pie Tee (Kueh Pai Tee)

ニョニヤパイティー (クエパイティー)

工芸品、デザイン、織物のすべて

ブラナカン文化は、ファッション、宝飾品、陶磁器や家具までさまざまなアート分野に浸透しています。場所によっては、ブラナカンに関連する品々を入手できるショップや町があります。



ハンドメイドのビーズのニョニヤサンダルとニョニヤクバヤが並ぶペナンのショップ

バティック (Batik)。伝統的なニョニヤスタイルのバティックとレースのシャツに再び流行の兆しが出ています。ニョニヤスタイルのバティックは主にジャワ島を中心としたインドネシアで作られています。刺繍の施されたシャツやレースのシャツはブーケット、ペナン、シンガポールで見つけることができます。ニョニヤバティックとババシャツには花や鳥のモチーフが入っているのが一般的です。ブーケットのタランロードにはさまざまな土産物屋や布製品を扱う店があります。ブーケットのブラナカン博物館にあるPeranakan Phuket Boutiqueもお勧めです。

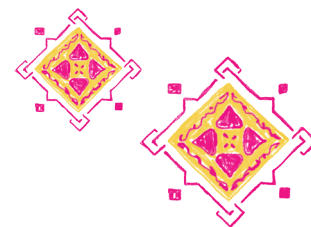
ブラナカンのアンティーク品はトレイル沿いの大きな都市で見つけることができます。シンガポールのイーストコースト・ロードにいくつかの店がありますが、特にきれいに修復されたルマ・ビビでは、由緒ある品々、バジュクバヤ(ブラウスドレス)、宝飾品、家具などの掘り出し物が見つかるはずです。

ブラナカンの家のファサードを飾るカラフルで光沢のあるタイルをお探しですか?シンガポールのテロック・アヤ・ストリートにあるPeranakan Tiles Galleryが、オリジナルのアンティークとリプロダクション(複製品)を販売しています。

ペナンのショップでハンドメイドのビーズのニョニヤサンダルとニョニヤクバヤを扱っているのは、ジョージタウンのジェンホテルおよびアルメニアンストリートにあるペナン・ニョニヤ・カルチャーです。すべて、若手ファッションデザイナーのババ、ケニー・ローの作品です。

バタク (Batak) 族の木彫り像は有名で、世界中の多くの博物館で展示されています。メダンでは、コロニアルタウン中心部にあるケサワンストリート沿いのアンティークショップや、KH.Zainul ArifinストリートにあるCrispo Antiquesで扱っています。

バレンバンのファキ・ジャラルディン ストリート (Faqih Jalaluddin)は歴史あるグランドモスク近くにあり、職人がマレーと中国のモチーフを融合させ、花や植物を精巧に彫り上げる伝統家具を作っています。ストリート沿いには多くのショールームが並んでおり、バレンバンの伝統的な色使いである濃い赤と金の塗装で家具を仕上げている様子を見ることができます。



週末の楽しみ

タイ南部の街歩き

タイでは街歩きが人気で、国内のあらゆる町で週末になると日没を合図に地元料理や工芸品を扱うマーケットが出現します。タイ南部でもっともお勧めの場所はブーケットのオールドタウンのタランロード周辺や、ソクラーのオールドタウンですが、地元ではチャンチャラー (Chan Cha La) ナイトマーケットと呼ばれているトランの鉄道駅のマーケットもお勧めです。地元の人と交流するにはもってこいの場所です。

イベントハイライト



マノーラ(ノーラとも呼ばれる)舞踊 (Manora (or Nora) dance) はタイ南部を象徴する踊りで、先祖の靈魂を呼び出します。カラフルな舞踊で、特別な衣装を着た踊り手がしばしばダイナミックなパフォーマンスを披露します。タイ国内には400近いマノーラの踊り手グループがあり、その大半は南部に集中しています。マノーラ舞踊は、例えばトランから1時間のパッタラン芸術カレッジでも学ぶことができ、生徒は各地を回り特別イベントで舞踊を披露しています。タイ政府はマノーラのユネスコ無形文化遺産への登録を目指しています。パッタランのターケー (Tha Kae) 地区では毎年ノーラ ロン クルー (Nora Rong Kru) フェスティバルが開催されています。ターケー地区はノーラ発祥の地と言われており、クルー マノーラ [Kru Ma Nora (かつての指導者の靈魂)] を崇拝しています。

ブーケット・オールドタウン・フェスティバルは比較的最近始まった行事で、通常2月に開催されます。特別にライトアップしたブーケットのオールドタウンでパレードや中国の龍舞ショーが行われ、人力三輪車に乗ったり、パバとニョニヤの調理デモンストラーションを楽しんだりすることができます。

ペナンのハングリーゴースト・フェスティバルは旧暦の7月15日の夜に行われる、先祖の霊をもてなす仏教徒の行事です。ジョージタウンの至るところで特別な料理が作られ、線香が焚かれ、京劇やコンサートが開催されます。

ジョージタウンフェスティバルは毎年7月に開催される夏の行事で2〜3週間にわたって続きます。ジョージタウンのユネスコ世界遺産登録につながった地元のアート、文化、遺産を祝うものです。展覧会が開催され、ダンスパフォーマンス、音楽、演劇が披露されます。

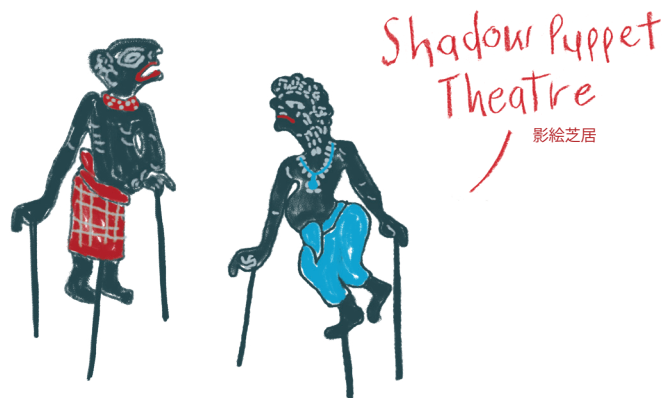
影絵芝居は、タイ語でナンタルン (Nang Talung)、マレー語とインドネシア語ではワヤンクリ (Wayang Kulit) と呼ばれ、タイ南部およびマレーシア北部で人気が高く、ソングラーの旧市街、ハジャイ、ペナンを中心にお祭りや一部レストランで上演されています。

マラッカ川のストリートアートかつて落書きと呼ばれていたものが一転し、今やストリートアートというおしゃれな名前と呼ばれるようになりました。かなり注目を集めており、今はどの町でもストリートアートを見ることができます。ブーケット、トラン、ソングラー、ジョージタウン、マラッカ、シンガポールは壁の一部をアーティストに提供しています。なかでも圧巻なのはマラッカ川沿いのストリートアートで、壁に肖像や絵が描かれた小さな家々が川沿いにどこまでも続く巨大なアートギャラリーになっています。

マラッカの聖ペドロ祭りは、毎年6月29日に開催されるマラッカのポルトガルコミュニティのお祝いです。ポルトガル、マレー、中国のミックスであるクリステングの人々による伝統舞踊と民謡が披露された後で、聖ペドロの像を海に沈めます。

シンガポール・ナイトフェスティバルは、8月の2週末にわたり開催されます。技法を凝らしたライティングで主要な歴史建造物に新たな命を吹き込み、プラスバサー・プギス・ストリートが屋外美術館に变身します。

タリ・リリン (Tari Lilin) ・タリ・ピリン (Tari Piring) は、西スマトラのミナンカバウの人々の伝統舞踊です。最初の演舞はキャンドル、2つ目の演舞では皿を手にして踊ります。大抵の祭りで披露される舞踊です。



Information

タイ アンダマン海沿岸

www.tourismthailand.org

タイ国政府観光庁 (TAT) はクラブ、パンガー、プーケット、ソクラー、トランに地域インフォメーションオフィスを設置しています。

www.phukettourist.com

www.songkhlaclacy.go.th

www.museumthailand.com

インドネシア

www.indonesia.travel/gb/en/destinations

www.medantourism.com

www.southsumatratourism.com

シンガポール

www.visitsingapore.com

マレーシア

Malaysia.travel

www.tourismmelaka.com

www.mypenang.gov.my



PERANAKAN
A Colourful Culture
Online version

ASEAN HERITAGE TRAIL

PERANAKAN

A Colourful Culture

1st Edition 2019

Printed in Thailand

ISBN 978-974-679-295-0

発行

Tourism Authority of Thailand

www.tourismthailand.org

ライター

Luc Citrinot

デザイン

Unplan Co., Ltd.

All rights reserved. 本誌内容を無断で複写、複製、転載、転記することを禁じます。

ASEAN各国への渡航や入国、またASEAN域内での国境を越えた移動には、さまざまな規制や制限が出ています (2021年2月現在)。最新情報は、各国の日本国大使館または外務省のウェブサイトをご確認ください。

この冊子は、発行元のタイ国政府観光庁 (TAT) の許可を得て、日本アセアンセンターが翻訳・編集をしたものです。著作権は、発行元に帰属します。

翻訳: 国際機関日本アセアンセンター



ASEAN-JAPAN
CENTRE



Tourism Authority of Thailand

1600 New Phetchaburi Road, Makkasan,
Ratchathewi, Bangkok 10400, THAILAND
Tel. +66 2250 5500
Call Center 1672